

風土記の丘の花だより²⁷⁸

今、そしてこれから見られる植物(2025年6月21日)

「梅雨、ですよねぇ・・・」と言いたくなるような天気です。16日頃でしたか、梅雨前線が天気図から消えましたね。これをご覧いただく頃は、果たしてどんな天気なのでしょうか？このまま真夏に突入するのだけは避けてもらいたいものです。



キキョウがきれいに咲いています。万葉植物園の所々で見られます。秋の七草の一つなのに、毎年、こんな蒸し暑い季節に咲きます。後ろには風船みたいにふくらんだつぼみも見えます。それで、英語ではバルーン・フラワー (B/loon flower) というそうです。万葉の昔は「朝顔・あさがほ」と呼ばれていて、「あさがほは 朝露負ひて 咲くといへど 夕かげにこそ 咲きまされけれ」という歌が残されています。さて、朝と夕とではどちらが美しいのでしょうか。



次の花も風土記の名物になったようで、ファンも増え、開花を待ち焦がれている方が多くいらっしゃいます。旧柳川家住宅の庭で咲くギンパイソウです。ギンパイは銀杯のことで、名前はこの花の姿からの連想でしょう。直径は大きくても2センチほどの弱々しい花ですが、真っ白で、何となく儚げな雰囲気がいいのでしょうか。葉も花茎もヒヨロヒヨロで、よくもこんな花が咲くものだと言います。花期は長いですが、毎日咲くという花ではないので、わざわざ見に行っても、もしも咲いていなかったら、ごめんなさい。



旧小早川家住宅の庭でネジバナがたくさん咲いています。外で作業をしてくださる方をお願いして、草刈りの時期に配慮していただいているので、年々、花数が増えています。感謝、感謝です。写真では下の方から咲き始めていることが分かりますね。捻りながら上へ上へと開花がすすみ、上の方のつぼみが開く頃には、下の花はすでに茶色になって枯れています。名前に「ラン」と付きませんが、とても身近な野生ランです。



アカメガシワに花が咲いています。といっても、華やかな花ではありません。いたって地味です。左が雌花、右が雄花です。カシワとは、食べ物を包む葉全般を指す言葉で、ブナ科の木のカシワの仲間という訳ではありません。新芽が赤いので、「赤芽柏・アカメガシワ」です。この葉でご飯を包む食文化があったのです。坂をのぼって、竪穴住居のあたりの竹の柵の前で雄株、雌株の両方が見られます。昔は「ひさぎ」と呼ばれていて、万葉集にも詠われています。 松下